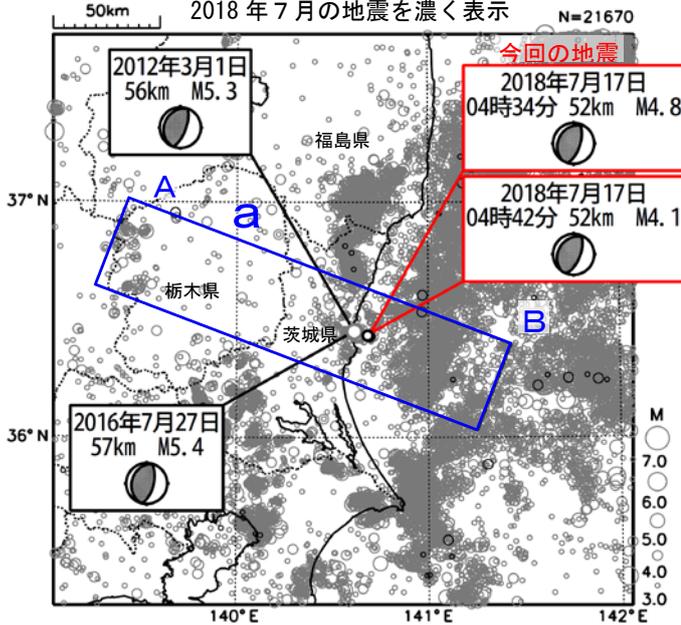


7月17日 茨城県沖の地震

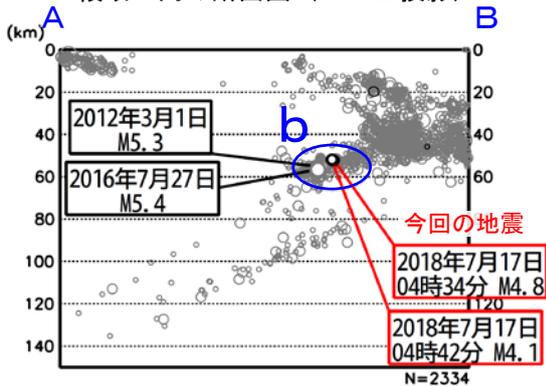
震央分布図

(1997年10月1日～2018年7月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 3.0$)

2018年7月の地震を濃く表示

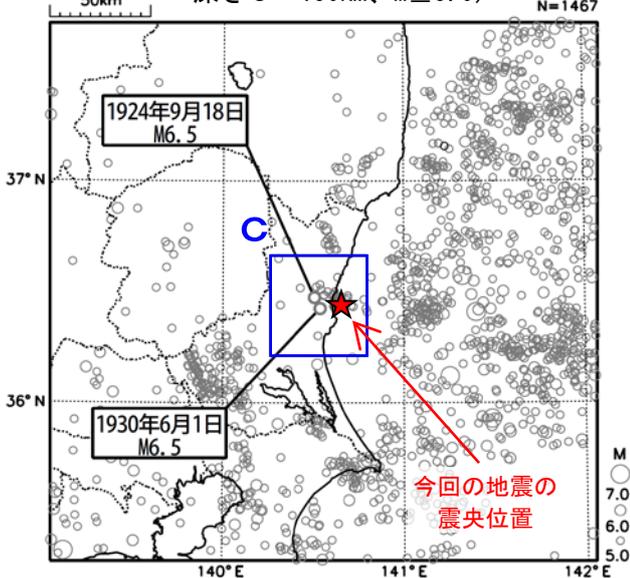


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2018年7月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

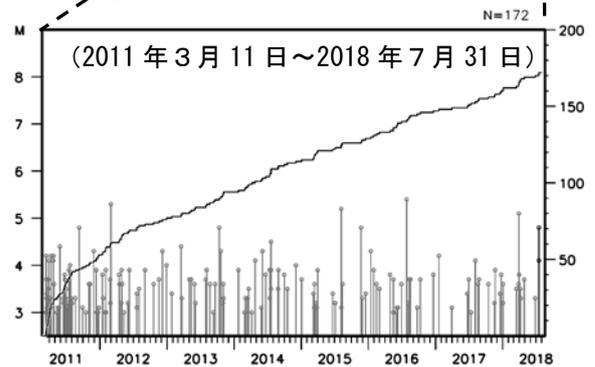
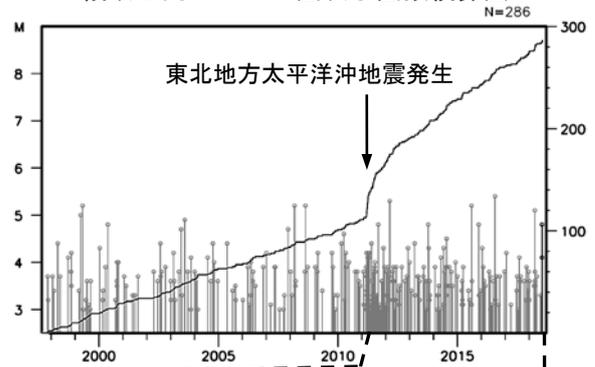


2018年7月17日04時34分に茨城県沖の深さ52kmで $M 4.8$ の地震(最大震度4)が発生した。この地震は発震機構が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震の発生以降、同日04時42分に $M 4.1$ の地震(最大震度3)が発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)は、 $M 5.0$ 以上の地震が時々発生している。東北地方太平洋沖地震の発生以降、活動がより活発になっており、2012年3月1日には $M 5.3$ の地震(最大震度5弱)、2016年7月27日には $M 5.4$ の地震(最大震度5弱)が発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域c)では、 $M 5.0$ 以上の地震が度々発生しており、このうち、1930年6月1日に発生した $M 6.5$ の地震(最大震度5)では、がけ崩れ、煙突倒壊などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

